

国立国語研究所学術情報リポジトリ

コミュニケーション能力とは何か

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2090

コミュニケーション能力とは何か

鳥飼 玖美子

最近の日本では、「コミュニケーション能力」がキーワードとなっている感があるが、日本語と関連してこの用語が使用されることは余りない。多くの場合、「コミュニケーション能力」は英語第二公用語論、小学校での英語教育など、殆どが日本人の英語力に関するものである。英語第二公用語論については、日本語でさえ公用語と明記されていないこともあり、いつのまにか立ち消えになったが、小学校での英会話教育は、「国際理解教育」の一環、という中途半端な形で2002年度から開始されることになっている。

しかし、日本人のコミュニケーション能力を問題にするなら、実は国語教育をも含めて、より抜本的な議論をするべきではなかろうか。外国語を習得する上で、まず前提として必要なのは豊かな母語能力である。さらに、もし日本人の英語運用能力に問題があるとすると、それは英語力そのものというよりは、むしろ日本人のコミュニケーション・スタイル、なにかんずく、日本人の言語観に起因するものが少なくないからである。

2000年末に出された第22期国語審議会答申では、これからの時代に求められる日本人の言語能力に関し、以下のように述べている。

「価値観や人間関係が多様化し、また情報が氾濫する現代の社会生活においては、主体性を持った個人として、物事を的確にとらえ、自分自身の考えを論理的にまとめ、相手に応じて適切に表現し、必要な場合には建設的に議論をして結論を得るといった、コミュニケーションにかかわる言語能力が欠かせない。」「外国人とのコミュニケーションのために外国語を習得することは有効であるが、日本語を母語とする者の言葉の能力の根幹は、日本語能力の習得によって培われることを忘れてはならない。」「したがって、言語教育は人間が持っている母語の習得能力の体系を軸として、総合的・体系的に考えられなければならない。」

コミュニケーション能力を育むために、何より大切なのは、ものを考える力、そして母語で豊かな表現力を身につけることであろう。確固としたアイデンティティと言語力を培っておけば、本当に言いたい何かが出てきた時に、必要な外国語を学ぼう、という意欲が湧く。逆に、いくら日常会話程度の英語が流暢でも、自らの精神の拠り所があやふやであったり、発想が貧困だったりすれば、発言の内実が貧弱になり、人間としての魅力に欠ける。言語は、人間そのものの表れであり、心を育み人格を形成していくのに重大な役割を果たすのは、母語である。

日本人が異文化コミュニケーションを行う際にもっとも大きな障害となる、コミュニケーションに関する消極性を考えると、まず言葉を使って意思疎通をはかる意欲を育むことが先決となる。多文化時代に生きる日本人は、言語を駆使して主張し、説得し、発信していかなければならない。まず母語から、言語感覚を磨く必要がある。

21世紀を担う次代の日本人が、どのような言語コミュニケーション能力を備えているべきか、人間の思想の根幹をなす「ことば」について、日本語の立場からも、積極的な考察がなされることを心から期待するものである。